

Aグループ

第4回ワークショップ

危機管理

- 予期せぬ災害時に備え市はどのような準備を整えておくべきですか？
- 予期せぬ災害時に備え市民はどのような準備を整えておくべきですか？

【市】

- ・非難は場所の確認を周知徹底
- ・情報の正確迅速な伝達方法
- ・的確な情報の伝達
- ・的確な状況把握
- ・的確な情報提供
- ・危機の定義を明確にする
- ・災害ボランティアの養成
- ・消防団を整理しボランティアへの意向
- ・1人暮らしの高齢者の人数を把握
- ・障害者や1人暮らし老人世帯を調査し、担当する人を確認しておく
- ・高齢者、障害者、子供、災害弱者への対応
- ・百里基地(茨城空港)が敵国やテロから襲われた時のシミュレーション
- ・災害発生時の対応、防災訓練の実施
- ・基金の創設
- ・農協等と地域連携、協力体制の整備
- ・災害時等から市民の生命を守るため市民関係機関との連携、協力、地域住民たちでの防災組織の活動が不可欠
- ・関係各機関の名前をあげて、連絡の仕方を明確にする
- ・地域企業と協定

【市民】

- ・地域のつながりを強く、コミュニケーションを
- ・一家に1つ防災グッズ
- ・災害物資はほどほどに第2の災害にならないように

第4回ワークショップ

- 企業との協働
- 条例策定にあたり、企業をどのように位置づけますか？（企業市民、市民の一部など）
 - 市が企業と協働すべきものとしてどのようなことがありますか？

【企業の位置づけ】

- ・市民の一部
- ・市外に住んでいても市内の企業で働いている間は企業市民である

【市と企業の連携・協働】

- ・地元企業等との連携と支援
- ・企業にも市民としての役割責任を認識してもらい協力をお願いする
- ・市民として位置づけ、各イベント・行事への参加を呼びかける
- ・各種団体（ボランティア）の参加と協力要請が大事
- ・行政主導と民間団体主導で目的を明確にしたものとその他に分ける
 - （例） 第3セクター } 市が認定
 - 特定企業 } 市が認定
 - 一般企業 }
- ・シンクタンクの一員
- ・人財交流
- ・地域のまちづくりに寄与する地域社会団体や公共性の高い営利を目的としない民間団体等と協働する
- ・工業団地の協議会等との連携を強化し、環境対策等に活用可能に

Bグループ

第4回ワークショップ

国・県・他市町村との連携

○市は国・県及び近隣市町村とどのような連携を図るべきですか？
また、その連携はどのエリアになりますか？

【国・県・市町村】

- ・百里基地による騒音で生活環境がひどくならないよう協議する
- ・市は共通する課題を解決するため地方公共団体と共に連携を図りながら協力することが大事
- ・茨城空港周辺市町村対策協議会の設置、そして防衛省、県への要望を強力なものにする
- ・空港アクセスについて連携を図るべき、積極的に情報を他県に周知すべき
- ・飛行場だけでなく、災害時の備蓄やヘリの運用ができるようにする
- ・河川流域地区安全対策協議会の設置、例えば開発が進んだ場合水量対策として上流に遊水池の整備(管轄する土木事務所が別になっていることもあるので)
- ・特例債の早期実現を積極的に推進すべき

【県・市町村】

- ・鹿島鉄道廃線について代替バスが検討されているが、空港へのアクセス線を考えるべき
- ・空港の開港に併せて近隣市町村との道路整備を進めていく
- ・茨城空港と鹿島鉄道の関係、近い将来茨城空港に乗り入れる様にしたい
- ・空港のオープンまでにアクセス道路の整備を県と協議する
- ・茨城空港の経営について、新聞等で現在の地方空港の経済の難しさを述べているが、財政的な見通しが不安になる
- ・茨城県の財政健全度は小美玉市に比べてかなり悪いとのデータがあるが県の健全化への努力を聞きたい
- ・特産物を市町村単位とせず、関係するものは近隣市町村に対し「いばらき」の生産の活性化を図るべき

【市町村】

- ・霞ヶ浦(環境面)当市は玉里地区が関係するが、関係市町と連携し水質や周辺道路(サイクリングロード)を整備していく
- ・公共施設の利用拡大について、文化センター等について隣接市町村へのP.Rを考える
- ・鹿島鉄道跡地の利用策
- ・自然遊歩道・サイクリングロードの整備
- ・市は近隣の自治体と情報交換をし、相互理解を深め連携協力を図ることが大事
- ・他の自治体と連携して、行政サービス、施設の相互利用で効果的かつ効率的な市政運営を行う
- ・他の市町村との共通する課題を相互で利用できるもの、統一できるものについて連携という位置づけをしておく
- ・鉾田にエコの建物があるが、本市もNPO等と連携できれば
- ・美野里地区と茨城町とで行っている老人会演芸会のような会を発展させるのはどうか

【その他】

- ・共通する課題を解決するために、他の自治体と協力する
- ・三町村の行政サービスが1つになっていない

第4回ワークショップ 男女共同参画

- 男女共同参画の社会とは、仕事・子育て・地域において、どのような社会ですか？
- 地域における男女共同参画を進めるために必要なことはなんですか？

【仕事】	【子育て】	【地域】
<ul style="list-style-type: none"> ・採用人事の基本は適正の高低を優先して行うことが大切と思われる ・意識改革(就業から見て) 男性…中高年者 女性…補助的な考え方を捨てる 企業…管理職は率先して改革すべき 社会…受け入れてきているが、まだ相当時間がかかる ・事業所において、(男性が)子供が病気のための休暇、早退について周囲が協力する態勢づくりをする ・仕事によってはお給料が一率になっているがそれに甘えてはいけない <p style="text-align: center;">・女性が就職して仕事を続けながら子育てが出来る環境の整備(法整備の要望)このことが進めば地域は元気になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育は6年生まであずかってほしい 学校の空き教室でなくてもよいのではない ・父親、祖父など男親を対象にした育児勉強会があってもよいのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子のヒナまつり、男の子のコイノボリの催しは止めるべきとの意見は極端ではないか ・生活の環境面を考える時、女性の意見は重要であるが、女性自身が前向きに対応してこない ・能力を活かし身近な活動に参加する ・幼児期から家庭で地域で男女共同参画の意識を改めなければならない

【小美玉市における男女共同を進めるために】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会的には格差を是とする企業・社会の意識は強い ・女性が男性と対等に発言できる社会を作る ・男女共同参画の立前については、認識されているが実質サブ的な考えは強い ・地域の間、子供の学校などに関係なく行政や地域の行事に参加でき、意見の言える環境をつくる ・男女共同参画の大切さは皆さん大体一致していると思うが、行事における男女のちがいについては混乱している ・各種委員に女性の委嘱(年齢的には結婚して環境が変わって子育てが終了した方)農業委員会の議会選任に女性を(水耕栽培、ハウス栽培なので農地の扱いは所有者にまかせて) | <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダーフリー」社会的、歴史的、文化的な性を否定する動向もあるが、要注意と思われる ・女性は自己主張の能力を身につけるようにする ・従来の慣習に囚われず積極的に市政に参加する ・古い考え方を見直す機会を多く設ける ・高齢者(特に男性)は意識改革をしなければならない ・男女間の格差を改善するため、市役所において役職に差を設けない ・女性により一層の努力をしてもらう |
|---|---|